

新組織「技術会議」の設立趣旨と活動

技術会議担当 理事

三菱電機株式会社

中西 康之

今期より日本オーディオ協会は、新組織として「技術会議」を新設しました。この会議は健全なオーディオ文化発展のために、オーディオ技術の特徴と課題を整理し、方向性を見極め、各部会事業活動を補完するために開催します。その設立の趣旨と、当面の活動予定について簡単に報告致します。

1. オーディオ業界の現状

この10年間にオーディオ業界は大きな変貌を経験しました。

デジタル化技術の進化による音源の伝送技術と蓄積技術の発展は益々利便性を追求し、携帯オーディオを中心に、完全にパーソナルユースが主流となりました。

またグローバル化での全世界マーケティングによる低価格化が進み、この戦略を推し進める企業と従来のオーディオ戦略を極める企業とに分かれました。

また、コンテンツに関しては、インターネットや携帯電話を介して入手するノンパッケージ化への動きが拡大し、コピー文化の日常化と共に、ソフト産業に大きなインパクトを与えました。

一方で、マジョリティーを成す新しいオーディオの流れに於いて「高忠実度再生」というクオリティーに対する優先順位があまり高くありませんでした。各企業と放送界ではデジタル映像の技術向上が重視されました。また通信業界においても伝送技術の大幅進化により、消費者への利便性は大幅に向上しました。しかし画質の大幅な向上に比べれば、オーディオのクオリティーに対しては殆ど注力されなかったのが実情です。インターネット経由で入手されるコンテンツもその殆どは圧縮音源であり、高音質よりも伝送と蓄積の利便性が優先されました。

かたや一部の市場関係者は、パーソナルユースの代表である携帯オーディオに対して批判的な立場をとり、本来、多層的に発展すべきオーディオ文化は完全に二極化され、その後の市場形成に影響を与えました。

しかしクオリティーに対するニーズが消失した訳ではなく、携帯オーディオのヘッドホン、標準装備品から高音質品に買い換える等の動きも堅調です。インターネット経由で高音質の良質な音源を配信して再生するインターネットオーディオも、徐々に普及しつつあります。カーオーディオでも、HiFi層はデジタル技術を駆使したタイムアライメントによる音場補正が一般化しており、この動きが一般層にも広がりつつあります。このように時代と共にオーディオスタイルは変わっても、少しでも良い音を求める基本ニーズは潜在的に根強いものと考えられます。

2. オーディオのあるべき姿と進むべき方向性

国内オーディオ市場のあるべき姿としては、先ず、価格と利便性のみでなく、今一度オーディ

オ市場に「感動」つまり感性品質の概念を導入することです。但し、二極化を促進するような一面的な「感動」ではなく、全てのオーディオ生活シーンの中で相乗効果が生まれる様な「感動」という感性品質の概念を持ち込むことが肝要です。携帯オーディオでも、PCオーディオでも、カーオーディオでも様々なシーンにおいて常に「良い音で聴こう」という感性品質の追求が重要です。

次に成熟した文化の下においては複合化やパーソナル化、ノンパッケージ化は必然であることを前提に、新技術の融合による複合化に積極的に挑戦することが必要です。利便性による新生活スタイル提案と、良い音の追求という感性品質の向上を同時に提案していくことが重要です。

オーディオ技術の切り口としては、第一に音源の製作に関するもの。第二に音源の伝送に関するもので、ノンパッケージとパッケージの二つがあります。第三として音源復元に関するものです。このすべての切り口に於ける技術の方向は、あくまで高忠実度の探求を主軸とすべきだと思います。これが大容量化デジタル技術と小型化要素技術により進化するものと考えられます。たとえ形態やシーンの違いによるレベル差があろうとも、「今より良い音で聴く」という文化が醸成され、多層的且つ連続的に繋がって大きなオーディオ文化という市場が形成されるのが理想です。

3. 技術会議の目的と当面の課題と活動

技術会議ではオーディオ文化と業界の健全なる成長の為に、より技術的な観点から技術トレンドを見極め、すべてのオーディオ関連分野に於いて、クオリティーの追求と健全なる企業活動の両立を実現すべく、側面的支援を展開します。

特に、最初に取り組む技術課題は、音楽再生空間の再現性の向上に関するもので、居室内、車室内、ヘッドホン等のいずれの音場空間でも、等価で良質な音楽再生の為に技術的検討を進めます。

例えば室内とヘッドホンの音場の違いによる課題について考察してみましよう。音楽コンテンツの殆どは2本のスピーカーを室内で再生する前提で作られています。この場合、右側のスピーカーの音は左耳にも、また左側のスピーカーの音は右耳にも入ります。しかしヘッドホンでは、右チャンネルの音は右耳のみ、左チャンネルの音は左耳のみに入力されます。つまり2本のスピーカーで聴くことを前提に製作者が作ったコンテンツをヘッドホンで聴いても、製作の意図どおりの音場を得ることはできません。これが頭内定位問題の基本課題です。しかしこれだけヘッドホンオーディオが普及しているにもかかわらず、この課題に対して業界では、ごく一部でしか取り組まれていないのが実情です。

また、新しいインターネットオーディオについても、まだ過渡期にあるため、名称ひとつとっても、PCオーディオ、USBオーディオ、Netオーディオ等混沌としており、用語を含めて様々な観点から整理が必要な状況です。

さらに技術会議では、技術の整理や方向付けに加えて、検討された内容を消費者に分かりやすく紹介していくことや、しかるべき関係組織に情報発信していくことが、重要なテーマと考えます。これには展示会とリンクしたセミナー開催や、独自有料シンポジウムの開催等を企画する予定です。

構成メンバーは、理事、各委員会委員、諮問委員、学識者等で構成しますが、JEITAやAES、日本レコード協会等とも密接に連携して進めていきたいと考えます。